

自立活動(通級による指導)学習指導案

情緒障害通級指導教室

1 単元 どうすればいいのかな?

2 児童の実態

A児 (5年男)	○ 社会生活を送る上で「今自分はどうすればよいか」は、知識としてはよく分かっている。ただし、日常場面で相手がどんな気持ちなのかを考えることが難しいことが多い。
B児 (6年男)	○ 社会生活を送る上で「今自分はどうすればよいか」という知識がまだ十分ではない。場面、場面でどうすればよいかを繰り返し練習すると実践できることも多い。

3 単元のねらい

「ルールを守る」、「自分の気持ちを分かりやすく伝える」、「相手の気持ちを考える」、「気持ちをコントロールする」など、日常生活場面における適切な行動を教師や友達と一緒に考えたり、模擬体験をしたりすることで、社会生活を送る上で必要な能力を高めるとともに、それを実践できるようにする。

4 本 時 (18/30)

(1) 目標 (個人目標)

A児 (5年男)	○ いろいろな表情の顔写真を見て、その人がどんな気持ちなのか、なぜそんな気持ちなのか、自分はどうすればよいのかを考えて発表することができる。
B児 (6年男)	○ 質問に答えて、自分がとるべき適切な行動を発表したり、模擬場面で適切な行動をとつたりすることができる。

(2) 展開 (45分)

時間	主な学習活動	教師の支援
(分) (10)	<p>1 始まりの会をする。 朝のあいさつ→あけぼのソング→健康観察→おはなしタイム→今日の学習→目当ての設定 【すがろくゲームに勝ったとき、負けたときにはどうすればよいか考えよう。】</p> <p>2 ソーシャルスキルゲーム(すがろくゲーム)をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ゲームの流れ <ul style="list-style-type: none"> ① 教師が一人ずつ順番に質問をする。 ② 子どもが「適切と考える行動」を答える。 ③ 適切な行動を答えることができたらさいころを2回ふる。 ④ 適切な行動を答えることができなかつた場合は、友達や教師と一緒に適切な行動を考えたり、実際にやってみたりする。その場合はさいころを1回ふる。 ⑤ 先にゴールまでたどり着いたら勝ちとする。 <p>【A児の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「怒っている」「笑っている」「嫌がっている」など、様々な表情の写真を見て、その人の気持ちを考える。 ② 相手がそんな表情のときには、どういう行動をとればよいかを考える。 <p>【B児の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「〇〇したいときには何と言えばいい。」という質問に答える。 ② 質問内容と同じ場面を設定して、実際に行動してみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「おはなしタイム」では、子どもの話を十分に聞くことで、話す意欲とその後の活動への意欲を高める。 ○ 目当てには、「ゲームに負けたときにとるべき行動」を設定して、ゲームが終了する前に、それぞれに確認させ、勝っても負けても気持ちのコントロールがしやすいようにする。 ○ ゲームが始まる前にルールを説明し、板書しておくことで、ゲームの途中でも自分で確認することができるようになる。 ○ 「適切な行動」を答えることができたり、気持ちを考えることができたりしたときは、「そうだね。よく分かったね。」など、十分に称賛することで、活動に対する意欲を高めるとともに、自己評価を高めることができるようになる。
(30)		<p>【A児の指導のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A児は、顔写真を見て気持ちを考えることは難しくはないが、気持ちは分かっても自己中心的な行動をすることが多いので、相手の気持ちを考えた後、自分はどうすればよいか、また、その理由まで考えることができるようにする。 <p>【B児の指導のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ B児は、自分の気持ちを言葉で分かりやすく伝えることがうまくできないことが多い。そこで、学習したことを、模擬場面で実際にを行うことで、般化しやすいようにする。
(5)	3 本時の活動を振り返り、自分ががんばったことや、友達のよかつたことなどを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分のがんばったことだけではなく、友達のがんばったことを発表することで、友達のよさに気付くことができるようになる。